

第32回大会プログラム

大会テーマ：「変革」：ミクロからマクロへの挑戦

—つながりとかち合いの未来へ—

会 期 2015年7月18日(土)～19日(日)

会 場 日本社会事業大学

7月18日(土)：第1日目

大会長挨拶

基調講演：根拠に基づく支援環境開発とその理念

—実践家・利用者・住民参画型による「効果モデル」形成評価に注目して—

大島 巖(第32回大会長・日本社会事業大学学長)

大会校企画シンポジウム：

変革：ミクロからマクロへの戦略

—実践家・利用者・住民参加による効果的な支援環境開発の方法：プログラム開発と評価を中心に—

コーディネーター：木村 容子(日本社会事業大学)

シンポジスト：副田あけみ(関東学院大学教授)

山野 則子(大阪府立大学教授)

田尾有樹子(社会福祉法人巣立ち会理事長)

室田 信一(首都大学東京准教授)

自由研究発表/課題セッション

情報交換会

7月19日(日)：第2日目

自由研究発表/課題セッション

学会学術奨励賞報告

学会企画シンポジウム：

変革：ミクロからマクロへの戦略

—地域圏域レベルでのソーシャルワークアドボカシー：モデル形成、システム形成、地域プランニング—

コーディネーター：小西加保留(関西学院大学教授)

シンポジスト等

報告：喜多 祐荘(神奈川県ソーシャルワーカー協会会長)

紹介：久保 美紀(明治学院大学教授)

報告：小林 聖子(豊島区民社会福祉協議会)

紹介：高橋 修一(日本社会福祉士会)

報告：岡部 正文(一般社団法人ソラテオ、相談支援センターあらかわ)

紹介：田村 綾子(日本精神保健福祉士協会、聖学院大学准教授)

報告：岡村 紀宏(日本医療社会福祉協会、西岡病院)

紹介：早坂由美子(日本医療社会福祉協会、北里大学病院)

指定発言者：牧里 毎治(関西学院大学教授)

ソーシャルワーカーデーへ向けてのクロージング：

これからの福祉課題にどう向き合うか

ー日本ソーシャルワークと世界の行動アジェンダー

閉会挨拶

自由研究発表：7月18日（土）

J1：自由研究発表① 【会場 A301】

J1-1：我が国のソーシャルワークにおけるナラティブ研究の動向と課題

ー国内先行文献の系統的レビューを通してー

道念 由紀（上智大学大学院博士後期課程）

J1-2：ソーシャルワーク実践の科学性確保のための KJ 法

ー構造構成主義に基づく KJ 法のための分析ワークシートの作成ー

間嶋 健（首都大学東京博士後期課程）

J1-3：ソーシャルワーク実践に対するレヴィ＝ストロースの視座の意義

ー理論に先立つ「視座」の検討ー

柳田 千尋（JCHO 地域医療機能推進機構東京山手メディカルセンター）

J1-4：災害ソーシャルワーク理論の体系化に向けた「機能特性」に関する実証的研究（2）

ー災害時のソーシャルワーク機能の明確化とその特性ー

村山 くみ（東北福祉大学）

J1-5：先住民のソーシャルワークに関する国際比較研究

ーグローバル定義からみた先住民アイヌと我が国のソーシャルワーク専門職への期待ー

VIRÁG Viktor（日本社会事業大学）

J2：自由研究発表② 【会場 A302】

J2-1：インターネットを介した効果的プログラムモデル改善の仕組みづくり

ー効果的障害者就労移行支援プログラムの取り組みからー

浦野 由佳（日本社会事業大学大学院）

J2-2：効果的障害者就労移行支援プログラムの枠組みを援用した聴覚障害者就労移行支援プログラム
形成の方法

ー研究者と実践家による協働研究の効果的な方法論に注目してー

益子 徹（日本社会事業大学大学院）

J2-3：全国盲老人福祉施設連絡協議会の設立過程

小西 律子（関西学院大学）

J2-4：障害者の自立を目指す六次産業化と社会福祉法人の方向性

ー福祉のところで地域・経済・環境とつながるー

石橋 須見江（社会福祉法人パステル）

J2-5：社会福祉組織に変化を起こす「組織開発」の可能性

ーソーシャルワークの方法としてー

安田 美予子（関西学院大学）

J3：自由研究発表③ 【会場 C301】

J3-1：ソーシャルワーク分野へのソーシャル・キャピタルの援用

ー海外の議論を中心にー

森 恭子（文教大学）

J3-2：市町村福祉総合相談体制構築が職員に与える影響と福祉ネットワークへの住民参加促進の効果について

ーエピソード記述によるケーススタディー

野村 政子（東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科）

J3-3：見守りの担い手としての地域事業所の現状と課題

ー地域事業所に対する調査からの検討ー

山井 理恵（明星大学）

L3-4：Indirect approach を方法論化したネットワーキングまでの結び

ー入院、在宅医療を組み合わせた緩和医療の在り方ー

畑中 眞優子（愛媛県立中央病院，ルーテル学院大学大学院総合人間研究科社会福祉学専攻研究生）

J3-5：がん患者に対する社会的支援体制の整備と展開に関する検討

品田 雄市（ルーテル学院大学大学院）

J4：自由研究発表④ 【会場 C303】

J4-1：スクールソーシャルワークにおける協働アセスメント要素の検討

ースクールソーシャルワーカーに対するインタビュー調査からー

岡村 奈緒美（京都府立大学大学院博士前期課程）

J4-2：地域サロン活動に携わる地域住民の在宅医療・介護に関する意識の変化課程

ー在宅医療・介護の理解普及を促進する医療ソーシャルワーカーの地域活動の一考察ー

小山 宰（梶原診療所 在宅総合ケアセンター）

J4-3：一事例にみる価値の統合化と事象群への還元の意義に関する一考察

ーデュッセルドルフ市におけるソーシャルワーク実践に関する事例研究ー

黒木 邦弘（熊本学園大学）

J4-4：失語症者に対する地域集团的援助活動の実践報告

ー質問紙調査と発話内容の数理言語的分析に基づく活動指針の考察ー

野須 潔（東海大学）

自由研究発表：7月19日（日）

J5：自由研究発表⑤ 【会場 A301】

J5-1：知的障害者支援における支援者のストレスと虐待に関する研究

ー知的障害者入所施設職員のストレスと虐待認識に注目してー

新藤 健太（日本社会事業大学大学院）

J5-2：生活支援場面における援助の客観的妥当性について

ー介護過程で発生するエラー要因の一考察ー

岩田 健（水戸看護福祉専門学校）

J5-3：他分野のソーシャルワーク実践にみるケアマネジメント展開の特徴
—相談支援機関へのアンケート調査から—

河野 高志（福岡県立大学）

J5-4：軽費老人ホームにおけるソーシャルワーク実践の実態と課題
—全国調査を通じた現状と今後の方向性の検討—

北本 佳子（昭和女子大学）

J5-5：軽費老人ホームにおけるソーシャルワーク実践の実態と課題
—テキストマイニングによる自由記述回答の分析—

荒井 浩道（駒澤大学）

J6：自由研究発表⑥ 【会場 A302】

J6-1：地域生活定着における精神障害当事者にとってのストレングスの意味
—地域で生活する当事者へのヒアリング調査から—

山東 綾乃（京都府立大学大学院）

J6-2：民生員の地域活動における援助観

—SCAT 分析による概念化—

倉西 隆男（日本社会福祉士会）

J6-3：利用者主体の福祉サービスの実践の限界

渡辺 修宏（水戸看護福祉専門学校）

J6-4：受容とは何か？

—援助者の振り返りシート作成による関係性の解明における一考察—

齊藤 友子（別府溝部学園短期大学）

J6-5：デンマークにおけるノーマライゼーション理念の源流についての一考察（2）

—1951年のThisted Jensenの論説より—

田代 幹康（東京福祉大学）

J7：自由研究発表⑦ 【会場 C301】

J7-1：精神障害のある人へのWellness Self-Management；WSMの実践
—リカバリーに対する意識の変化に着目して—

早川 紗耶香（尼崎市保健所）

J7-2：「生活見守り付きアパート」の実践報告

—障害を抱え困窮するケースへの生活支援—

黒田 和代（特定非営利活動法人サマリア）

J7-3：離婚後面会交流におけるソーシャルワーカー介入の試み

益子 行弘（浦和大学）

J7-4：高度生殖医療で子を得られなかった在留邦人女性の語りの構造

宮嶋 淳（中部学院大学）

J7-5：認知症高齢者・家族支援におけるナラティブ・プラクティス

—「人生の木」を活用した当事者・家族参画と多職種連携の推進—

安達 映子（立正大学）

J8：自由研究発表⑧ 【会場 C303】

- J8-1：効果的プログラムモデルの評価活動を通じたソーシャルワーク人材の育成
—1年間のプログラム試行評価を通して—
村里 優（日本社会事業大学大学院）
- J8-2：ソーシャルワークの理論や価値を伝えるための取り組み
—「子ども支援者のためのソーシャルワーク講座」の企画と実践—
山田 恵子（早稲田大学大学院）
- J8-3：地域密着型サービスに従事する介護福祉士の教育ニーズに関する研究
—現行の教育・研修の実態と介護福祉士の役割に注目した文献研究から—
中崎 明日香（日本社会事業大学大学院）
- J8-4：相談援助実習における実習プログラム作成の現状とその関連要因
—北海道における相談援助実習実施施設・機関への調査を基に—
川匂 亜紀奈（北海道医療大学）
- J8-5：社会福祉士養成課程における相談援助をめぐる構造的課題
—実習指導者が実習で実施困難な事項と実習時間の延長に関する認識の分析から—
伊藤 新一郎（北星学園大学）
- J8-6：実習領域による相談援助実習の実施困難な内容とその理由
—自由記述回答に対するコレスポネンス分析を用いた検討—
畑 亮輔（北星学園大学）

課題セッション：7月18日（土）

K1：課題セッション①「地位包括ケアシステムの推進」

〔コーディネーター：小原 眞知子（日本社会事業大学）〕 【会場 A401】

- K1-1：過疎地域における地域包括ケアシステムに関する一考察
—一人暮らし高齢者の相談相手に着目して—
中田 雅美（九州大学）
- K1-2：地域包括ケア病棟ソーシャルワーカーの役割と患者支援の構築
齋藤 誠二（JCHO 東京高輪病院）
- K1-3：療養型病院における退院支援ケースの一考察
—地域包括ケアシステム構築におけるソーシャルワーク支援の専門性の活用—
菊池 要子（医療法人桃季会 御殿山病院）
- K1-4：地域包括支援センターにおけるアセスメント方法の構築（1）
—エコシステム視座からの指標の検討—
加藤 由依（高知県立大学）

K2：課題セッション②「貧困と立ち向かう」

〔コーディネーター：内田 宏明（日本社会事業大学）〕 【会場 A402】

- K2-1：沖縄におけるミクロからマクロをとらえる反貧困ソーシャルワーク実践
—生活課題と貧困・差別・平和問題を結ぶ構造的視点—
高木 博史（岐阜経済大学経済学部公共政策学科）

K2-2：福祉事務所と委託事業所の就労支援体制構築プログラム（仮称）の開発と評価
－プログラム評価の理論と方法を用いて－

高橋 浩介（横浜市鶴見福祉保健センター生活支援課）

K2-3：貧困者・生活困窮者支援についての一考察

－長野県民医連生活保護受給者実態調査の自由記述の分析から－

石坂 誠（佛教大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程）

課題セッション：7月19日（日）

K3：課題セッション③「脱施設化に向けた社会変革」

〔コーディネーター：古屋 龍太（日本社会事業大学）〕 【会場 A401】

K3-1：精神科病院と地域事業所の実践を統合した地域移行・地域定着支援プログラム

－実践家参画型プログラム評価におけるプロセス整理の検討－

高野 悟史（日本社会事業大学大学院）

K3-2：精神障害者地域移行支援推進に向けた協議会とピアサポーターによる地域移行支援活動の現状

－協議会運営事業所等に対するアンケート調査から－

黒須 依子（九州保健福祉大学）

K3-3：施設支援から地域支援におけるプロセス考察

忠澤 智巳（荒川区役所障害福祉課/東北公益文科大学大学院博士課程）

K3-4：精神科病院での認知症医療

－脱・精神科病院化を推進していくために変えていくべき精神科医療のあり方－

木下 一雄（名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科）

K4：課題セッション④〔プログラム評価によるソーシャルワーク実践の質向上〕

〔コーディネーター：贅川 信幸（日本社会事業大学）〕 【会場 A402】

K4-1：デイケア & 訪問支援統合化プログラムにおける実践家参画型開発評価の成果と課題

－実践家参画型ワークショップ，意見交換会におけるプログラムの改善－

大山 早紀子（立教大学）

K4-2：実践家参画型ワークショップによる評価ファシリテーションの構造化

－効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの形成評価－

大友 秀治（大阪府立大学大学院人間社会学研究科）

K4-3：コミュニティソーシャルワーカー配置事業のプログラム評価モデル構築に向けて

－実践家参画型ワークショップによるインパクト理論の形成－

菱沼 幹男（日本社会事業大学）